

三日市小学校保護者のみなさまへ

河内長野市立三日市小学校
校長 北野良和

令和3年度全国学力・学習状況調査及び小学生すくすくテストの結果を受けて

5月27日（木）に全国の小学6年生・中学3年生を対象に「令和3年度全国学力・学習状況調査」（以下学調）が実施されました。また、今年度から大阪府の小学校5年生6年生を対象とした「小学生すくすくテスト」（以下すくすく）も実施されました。

学調では、国語・算数と児童質問、すくすくでは、6年生に理科とわくわく問題（教科横断型問題）と児童アンケート、5年生に国語・算数・理科、わくわく問題と児童アンケートが実施されました。

学調の内容は、国語・算数では、「知識（身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等）」と「活用（知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容）」を一体的に問う問題と、児童質問では、「学習意欲」「学習方法」「学習環境」「生活の諸側面」等に関する調査が実施されました。

すくすくの内容は、わくわく問題では、文章や絵、図、表、グラフ、ホームページなどを読み取り、自分の考えを書くなどの問題、3教科の問題では4年生までに学習した内容の問題、児童アンケートでは、子どもたち自身のことや、学校やふだんの生活のことなどについての質問が実施されました。

それらの結果が先日公表されましたので、本校の結果を報告します。

本調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てること、さらに、そのような取り組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することを目的としています。本調査の結果は学力の特定の一部であり、公表によって学校の序列化につながらないように配慮することが文部科学省より示されています。

本校といたしまして、この調査を通し、子どもたちの学力と学習の状況を正確に把握することで、教員の指導力・授業力の向上につなげていくことが本来の趣旨と考え、本校の子どもたちの長所、また、課題と課題解決のための手立てについて学調を中心に考えていきたいと思えます。

○調査問題の内容について

1. 教科（国語・算数）に関する調査

＜国語＞

「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」の内容に基づき、全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものが精選され出題されました。「知識及び技能」から、言葉の特徴や使い方に関する事項・情報の扱い方に関する事項・我が国の言語文化に関する事項、「思考力、

判断力、表現力等」から話すこと・聞くこと・書くこと・読むことが出題されました。なお、これらの問題は5年生までの内容です。

《算数》

「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」の各領域に示された内容からバランスよく出題され、「事実」を記述する問題・「方法」を記述する問題・「理由」を記述する問題が出題されました。なお、これらの問題は5年生までの内容です。

2. 質問紙調査

《児童・生徒に対する調査》

基本的な生活習慣、挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、ICTを活用した学習状況、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況、学習に対する興味・関心や授業の理解度等、新型コロナウイルス感染症の影響についての質問でした。

○調査結果を受けて

《国語概況》

全国平均と比べると「目的や意図に応じ資料を使って話す」の問題は正答率が上回りました。「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」問題と「文の中における修飾と被修飾との関係を捉える」問題は正答率が下回り、「ことばの特徴や使い方」が課題でした。

《算数概況》

全国平均と比べると「速さを求める除法の式と商の意味を理解している」問題と「データを二次元の表に分類整理することができる」問題は正答率が上回りました。「二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを式や言葉を用いて記述できる」等の問題の正答率が下回り、「記述式」問題にも課題が見られました。また、「棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができる」問題も正答率が下回りました。1つのグラフの情報は読み取れていますが、2つ以上のグラフの情報を比較しその関係性を読み取ることが課題でした。

《児童生徒質問紙調査より》

基本的な生活習慣等では「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか・起きていますか」「朝食を毎日食べていますか」の項目では、肯定的回答が全国平均を上回りました。また、「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束をしたことを守っていますか」の項目では、家の人と約束をしている人の内「守っている」と答えた子どもが100%でした。大変ありがたく思いました。

挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等では「自分には、よいところがあると思いますか」「将来の夢や目標を持っていますか」「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか」「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか」等も大変高い肯定的回答が得られています。

学習習慣、学習環境等では「友達と協力するのは楽しいと思いますか」や「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」等、ほとんどの項目で肯定的回答が全国平均を上回る結果となりました。

ICTを活用した学習状況では、全国及び大阪府の平均に対して大幅に肯定的意見が上回りました。一人一台タブレットの導入が、府下でも早く行われた河内長野市であったからこそその結果であると思われます。

学習に対する興味関心では、「聞く」「話す」「書く」などの項目で全国平均を上回り、子ども

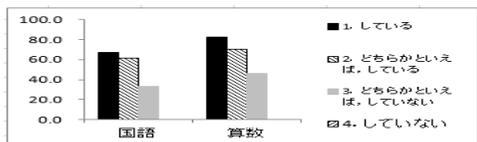
たちの学習意欲の高さがうかがえました。

最後の新型コロナウイルス感染症の影響についての質問では、勉強に対する不安が大きかったことが分かる結果となり、休業期間中は規則正しい生活ができていなかったことが分かりました。

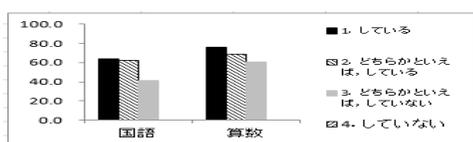
○学校質問紙と学力とのクロス分析

本校の子どもたちの日常の生活習慣と学力との関係を取り上げて比べてみました。クロス分析の結果より、正答率の高かった児童質問紙の項目を取り上げてみます。

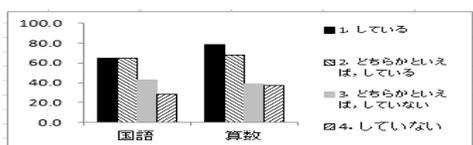
「朝食を毎日食べていますか」



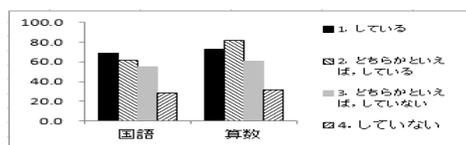
「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」



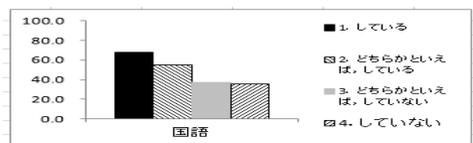
「あなたは家でどれくらい日本語を話しますか」



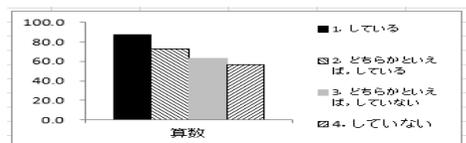
「表現を工夫して書いたりしていますか」



「国語の勉強は好きですか」



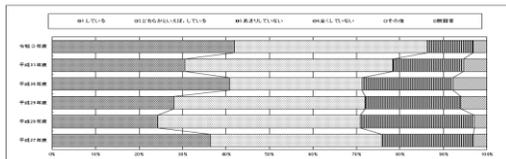
「算数の勉強は好きですか」



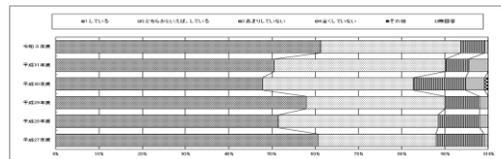
○経年比較

子どもたちの質問事項を、本校の過去の結果と比較し、今年度特によかった項目を取り上げてみます。

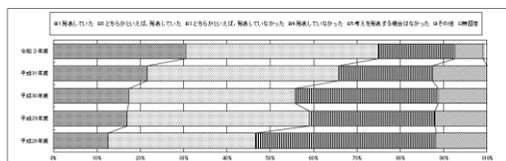
「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」



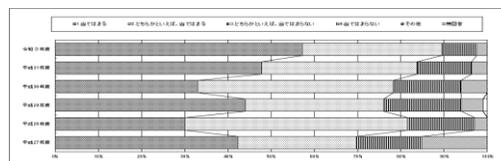
「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」



「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」



「算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」



○子どもたちの学力を高める手立て

《学校が重点的に取り組んでいくこと》

《国語》

- ・ 日記やノート等を書く際、積極的に既習の漢字を使用するよう指導する。
- ・ 普段の漢字の学習から、漢字を使った短作文などを使用し、意味を考えながら読み、書く指導をする。
- ・ 読書の時間等を利用し、長文を読み、文章構成に慣れ親しませる。
- ・ 文章の中のキーワードやキーセンテンスを見つける指導をする。

《算数》

- ・ 文章から必要な情報を読み取り、簡単な図や絵でかけるようにイメージ化する指導をする。
- ・ 時間の感覚がつかみにくい、何分間、何分前、何分後など、日常生活の中で指導をする。
- ・ 面積の公式のように多数種類があるものを覚えるため、日頃から記述式の問題に触れるよう指導する。
- ・ 情報を取捨選択していくことができるよう、情報過多の問題に慣れるよう指導する。

《児童のみなさんに取り組んでほしいこと》

- ・ 問題を解くために、最後まで続ける努力、何かを書こうとする努力が見られた。今後とも続けてほしい。
- ・ 授業を大切にし、めあてを持って取り組む。
- ・ 習った漢字を忘れないよう繰り返し練習をする。文章を読むときに、漢字の意味を考えながら読むようにする。文章を書くときに、習った漢字を積極的に使うようにする。
- ・ 初見の文章をすらすら読み、内容を読み取ることができるよう、日々の音読を大切にする。
- ・ 日常生活の中で、たす、ひく、かける、わるを使っていることを意識する。
- ・ 日常生活の中にあるたくさんの情報から、必要な情報を選びだし活用する力をつける。

《保護者のみなさまに協力してほしいこと》

- ・ 今回の調査では「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束をしたことを守っていますか」の項目で、家の人と約束をしている人の内“守っている”と答えた子どもが100%でした。しかし、ネット等によるトラブルは多くなっています。また、毎年、携帯電話・スマートフォンやコンピュータ、ゲーム機等を長時間使用する子どもは、正答率が低い傾向があり、今回も同様の結果が出ています。携帯電話・スマートフォンやコンピュータ、ゲーム機等の使用について改めてお子さまと確認をしてください。
- ・ 情報を整理する力が高ければ高いほど、正答率も高い傾向にあります。日常生活の中にあるたくさんの情報の中から、本当に必要な情報を見つけられるよう、社会の諸問題について考えるきっかけを作ってください。

令和3年度全国学力・学習状況調査と同時に「保護者に対する調査」（無作為抽出・「家庭状況と児童生徒の学力等の関係について分析するために、児童生徒の家庭における状況、保護者の教育に関する考え方等に関する調査」）もおこなわれています。結果の公表は来年度となるため、来年度、保護者の働きかけと学力との関係について考えていきたいと思います。